

本邦における大動脈生体弁機能不全に対する経カテーテル的大動脈弁植込み術の検討に関する研究

1. 研究の対象

2013 年 1 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日までに大阪大学医学部附属病院または以下の機関において大動脈生体弁機能不全に対する経カテーテル治療を受けられた方

2. 研究目的・方法

研究機関：研究機関の長の許可日 ～ 2026 年 3 月 31 日

利用または提供を開始する予定日：2024 年 4 月 1 日

- 1) 本邦における大動脈生体弁機能不全症に対する経カテーテル的大動脈弁植込み術（以下 TAV-in-SAV）の早期、中期成績を検討する。
- 2) 小さな大動脈生体弁（19mm もしくは 21mm サイズ）とそれ以外のサイズに対する TAV-in-SAV の血行動態を含めた臨床成績を比較検討する。
- 3) 自己拡張弁とバルーン拡張弁を用いた TAV-in-SAV の血行動態を含めた臨床成績を比較検討する。

これらの研究結果から本邦のような小柄な患者に対するよりよい TAV-in-SAV 治療の提供を目指す。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢、性別、既往歴、投薬内容、血液検査、心エコー検査、予後情報（再入院や死亡など）等。

4. 外部への試料・情報の提供

データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織（利用する者の範囲）

共同研究施設

大阪大学医学部附属病院 心臓血管外科 特任講師 前田孝一

既存情報の提供のみの機関

心臓病センター榊原病院 心臓血管外科 副院長 吉鷹秀範

佐賀大学医学部附属病院 心臓血管外科 准教授 柚木純二

久留米大学医学部附属病院 心臓血管外科 准教授 高瀬谷徹

東京女子医科大学病院 心臓血管外科 講師 道本智